

植物学ラテン語初歩(2)

豊 国 秀 夫

H. Toyokuni: 'Elementa Linguae Latinae Botanicae (2)

本誌、第14号では、植物の記載文を書くために必要な最少限のラテン語文法につき述べ、短かい記載文の実例を1つ紹介した。その際、朝比奈・清水両博士の「植物薬物学名典範」がほとんど入手不可能であると書いたが、幸い昨年10月に復刻されて容易に入手できるようになった。また、先回「植物の新しい分類群 (taxa) 命名の際には、バクテリアを除いて、ラテン語の記載文が無いと正式に発表されたとは認められないことになっている。」と書いたが、これは筆者の間違いで、バクテリアに関しては、1976年に「国際細菌命名規約 (the International Code of Nomenclature of Bacteria)」が出版され、植物から分けられてしまったので、現生植物の新分類群の命名には、すべてラテン語の記載文が必要になった。

10. 数詞

数詞は、一般的には形容詞の中に含めて扱われる場合が多いが、植物の記載文中では、かなり重要であるから、特に数詞を独立させて説明することにした。数には基数と序数があり、この点英語やドイツ語と同じように考えればよい。以下例をあげる。

数字	基数		序数
1	unus	} 数, 性格により変化する	primus
2	duo		secundus
3	tres		tertius
4	quattuor	不変化	quartus
5	quinque	"	quintus
6	sex	"	sextus
7	septem	"	septimus
8	octo	"	octavus
9	novem	"	nonus
10	decem	"	decimus
11	undecim	"	undecimus
12	duodecim	"	duodecimus
13	tredecim	"	tertius decimus
19	undeviginti	"	undevicensimus
20	viginti	"	vicensimus
21	unus et viginti	unusのみ変化	vicensimus primus

記載文における数詞は、たいていアラビア数字で記述するので、バラ科の雄蕊のように「雄蕊20~24」などの場合、ラテン語では「stamina 20~24」と書くので、ラテン語での読み方を覚える必要はほとんどないかも知れない。一応常識として覚えておいてほしいことは、英語やドイツ語と違って、18は20から2を引く、19は20から1を引くという表現のしかたをする点である。例に挙げてある19は、「undeviginti」と基数で言うが、これは、unus de viginti すなわち「20から1をとる」という表現である。

11. 接続詞

接続詞は、記載文にはそれほど種類は出てこないが、なくてはならぬ品詞の一つである。多く出てくるのは、「および」、「あるいは」、「しかし」の三つである。

「および」ラテン語では、ふつう et を使う。例えば caulis et folia (茎と葉), calyx et corolla (萼と花冠) の場合のように、英語の and と同じと考えてよい。但し、ラテン語の場合には、結びつけられる言葉のすべてに et をつけるか、あるいは、同じ意味に使用される接尾語の -que を、それぞれの言葉の後につける。英語のように「—, —, — and —」の形はとらず、"— et — et — et —" のように表わすのが本来のラテン語である。しかし「植物学ラテン語」という特殊なラテン語では、英語やドイツ語的使用の方をする人が増えている。

「あるいは、または」vel または接尾語 -ve を使用する。例えば folia ovata vel elliptica vel oblonga (葉は卵形、だ円形または長だ円形), corolla purpurea albave (花冠は紫色または白色)。他に sive, seu も同様な意味を持っている。

「しかし」記載文中でよく使用する接続詞であり、sed を使用する。例文としては、Haec species Saussu-

reae chionophyllae affinis, sed differt floribus magnis (本種は、ユキバヒゴタイに近い、しかし花が大きいことで異なる)。

12. 形容詞の比較級・最上級

長さ、巾、高さ、大きさ、重さなど、2種の間、あるいは同種の亜種や変種間で比較する場合がしばしばある。この場合に、形容詞や副詞の比較級が使用される。例えば、長いという形容詞は longus, longa, longum で、それぞれ文法上の男性名詞、女性名詞、中性名詞につく場合、語尾が -us, -a, -um と変化する。比較級では longior, longior, longius となり、男性形と女性形は同一で、中性形のみ異なる。最上級では, longissimus, longissima, longissimum となる。狭いという形容詞は angustus, angusta, angustum. 比較級で angustior, angustior, angustius, 最上級で angustissimus, angustissima, angustissimum となる。したがって、形容詞の原形の語幹に -ior をつけると比較級の男・女性形, -ius をつけると中性形となる。同様に、語幹に -issimus, -issima, -issimum をつけると最上級になる。しかし例外もあって、「やわらかい」と言う形容詞は、原形で tener, tenera, tenerum, 比較級で tenerior, tenerior, tenerius, 最上級では, tenerrimus, tenerrima, tenerrimum と変化する。また形容詞の比較級と最上級が、原形と全く異なる場合もある。丁度、英語の good, better, best を思い浮かべればよい。「よい」という形容詞は, bonus, bona, bonum, 比較級では, melior, melior, melius, 最上級で optimus, optima, optimum, 「大きい」は magnus, magna, magnum, 比較級で major, major, majus, 最上級で maximus, maxima, maximum となる。このような不規則な変化をする形容詞については、一つ一つ覚えなければならないが、記載文によく出てくるのはそれ程多数ではないので、特に主要なものを重点的に記憶するとよい。

13. 副詞 (その2)

副詞については、ごく一般的なもののみ(6)で記述した。ここでは、補足のため、記載にはよく出てくるが、前述の6語以外のものについて少しふれる。gradatim 英語の gradually に相当するもので、葉の形の記載文などにおいて「先端に向かって次第に細くなる」などの場合に 'in apicem versus gradatim angustata' のように表現する。この場合の 'versus' は、副詞および前置詞の両方に使用する語で、「～に向かって」の意。

leviter 英語の slightly に当る。「葉は基部で僅かに心形」という場合に 'folia basi leviter cordata' のように表現する。

plus minusve 英語の more or less すなわち「多少」という意味で、plus minus でも、±と書いてもよい。「茎は多少有毛」は 'caulis plus minusve pilosus' と表現する。

circa および circiter 英語の about すなわち、「約」、「ほぼ」に当る。「茎は高さほぼ1m」を 'caulis circa 1m altus' と表現する。ca, と略記するのが普通である。

horizontaliter 英語の horizontally で、「水平に」の意。

longitudinaliter 英語の longitudinally, lengthwise に当り、「たてに」の意。

副詞の比較級、最上級は、形容詞の場合と似ている。例えば longus (長い)という形容詞を原形のまま副詞にすると longe (長く)となり、この形容詞の比較級の中性の形 longius はそのままの形で副詞となり「より長く」という意味になる。最上級は longissime となり、副詞の最上級は「一番～」という意味よりも「非常に～」という意味で普通用いられる。

'folia longe petiolata' 「葉は長く柄がある」

'folia longius petiolata' 「葉はより長く柄がある」他のものと比較の場合に使用。

'folia longissime petiolata' 「葉は非常に長く柄がある」

副詞にも、形容詞同様、比較級、最上級の不規則なものがある。

bene (英語の well), melius (英語の better), optime (英語の best)

14. 二者の比較

記載文中で「花冠は萼より長い」とか「葉柄は葉身より長い」など、二者の比較が必要になる場合がある。この場合、英語の than に当る副詞 quam を使用して、比較される言葉の前に置くか、或いは、quam を使用しないで、比較される言葉を奇格(先図の「4-3, 七つの格」を参照)。

例えば、「花冠は萼より長い」は

(1) Corolla quam calyx longior.

(2) Corolla calyce longior.

と二通りの表現ができる。(2)の場合の calyce (萼)の取っている格は、文法的には、比較の奇格 (casus ablativus comparationis) と呼ばれる。

同様に「葉柄は葉身より長い」は

- (1) petiolus folii quam lamina longior.
 (2) petiolus folii lamina longior.

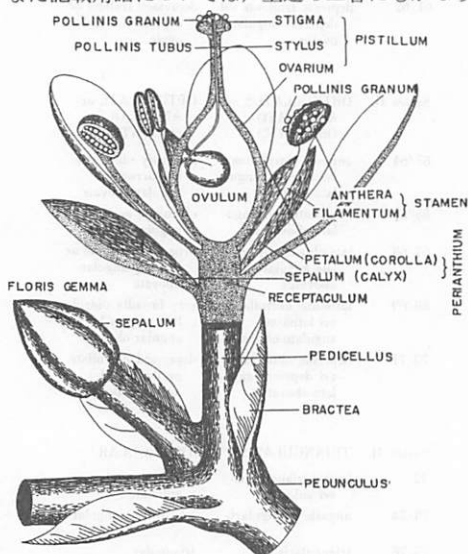
の二通りで表現される。「葉身」が(1)でも(2)でも同じ形“lamina”となっているのは、主格と奪格とが同形だからである。但し、発音上では、奪格は,la-minā と最後の a が長母音となる。

15. ラテン語記載の参考書

以上、ラテン語の記載について主要なポイントは述べてきたつもりであるが、余りこまかい点まで記述するとかえってこんがらかってしまう恐れがあるので、大ざっぱな記述に留めた。

参考書としては、横文字アレルギーでなければ、W. T. Stearn 著 “Botanical Latin” David & Charles がよい。どうしても、日本語でというのであれば、朝比奈泰彦・清水藤太郎著の「植物薬物学名典範」有明書房が現在出版されている唯一の参考書である。

また記載用語については、上述の二著にもかなり



第1図 一般的な花の各部の名称を示す図。(図は Benson, L. 1959 により、英語の用語をラテン語に変更)

詳しく出ているが、記載用語以外にも、記載文中に種々ラテン語が出てくるので、何かラテン語の文法書1冊と、ラテン語辞典1冊(羅和でも羅英でもよい)は最低限必要となる。その他

日本語では

下郡山正已他「最新植物用語辞典」広川書店、英語では、

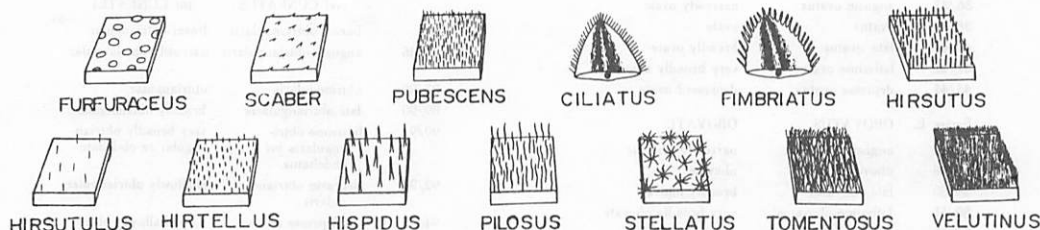
Featherly, H. I. “Taxonomic Terminology of the Higher Plants” Hafner

Jackson, B. D. “A Glossary of Botanic Terms”

Zimmer, G. F. “A Popular Dictionary of Botanical Names and Terms” Routledge & Kegan Paul などよい。英語の上記二書は古い本であるが復刻されている。

また、便利な植物学用語辞典として、1960年モスクワで出版された “Botanical Dictionary — Russian-English-German-French-Latin —” がある。

以下若干記載用語の資料を提供する。第1図は一般的な花の図である。一応訳語をつけると, pollinis granum (花粉粒), pollinis tubus (花粉管), stigma (柱頭), stylus (花柱), ovarium (子房), pistillum (雌蕊), anthera (葯), filamentum (花糸), stamen (雄蕊), ovulum (胚珠), petalum (花弁, 複数は petala), sepalum (萼片, 複数は sepala), corolla (花冠), calyx (萼), perianthium (花被), receptaculum (花床, 花托), pedicellus (小花柄, 小花梗), bractea (苞葉, 苞), pedunculus (花柄, 花梗), floris gemma (花芽)。第2図は葉の表面観で, furfuraceus (糖状の), scaber (粗面の), pubescens (軟毛ある), ciliatus (縁毛のある), fimbriatus (長毛縁の, ふさ状にさけた), hirsutus (粗長毛の), hirsutulus (僅粗長毛の), hirtellus (小粗長毛の), hispidus (長剛毛の), pilosus (有毛の), stellatus (星状毛の), tomentosus (密綿毛の), velutinus (ピロード状



第2図 葉の表面観(毛を含む)(Benson, L.による)

毛の)となる。

植物記載用語の中でも、特に難かしいのは、葉の形の表現法であろう。同じ言葉を使用しても、記載者によって、かなり意味の違いが見られるからである。国際植物分類学会では、1962年に、その機関誌 Taxon 11巻5号で、葉形記載に便利なチャートが発表された。大変便利なものなので、その後リプリントされ、また、前述の W. T. Stearn の "Botanical Latin" にも載せられている。ここでは、そのチャートを第3図として載せることにした。各形の名称は、下に示したようになっている。英訳がついているので、ここで日本語訳をつけることは省略するので、従来の記述法よりずっと間違いがすくなくとなると考えられる。御利用戴ければ幸である。

(完)

CHART 1—LANGUAGE EQUIVALENTS

	<i>Latin</i>	<i>English</i>		<i>Latin</i>	<i>English</i>
Series A.	ELLIPTICUS	ELLIPTIC	Series F.	TRULLATUS vel ANGULATO-OVATUS	TRULLATE or ANGULAR-OVATE
1/2	anguste ellipticus	narrowly elliptic	54/55	anguste trullatus vel anguste angulato-ovatus	narrowly trullate or narrowly angular-ovate
3/4	ellipticus	elliptic	56/57	trullatus vel angulato-ovatus	trullate or angular-ovate
5	late ellipticus	broadly elliptic	58/59	late trullatus vel late angulato-ovatus	broadly trullate or broadly angular-ovate
6	circularis	circular	59/60	latissime trullatus vel latissime angulato-ovatus	very broadly trullate or very broadly angular-ovate
7	transverse late ellipticus	transversely broadly elliptic	61/62	depressa trullatus vel depressa angulato-ovatus	depressed trullate or depressed angular-ovate
8/9	transverse ellipticus	transversely elliptic	Series G.	OBTRULLATUS vel ANGULATO-OBOVATUS	OBTRULLATE or ANGULAR-OBOVATE
10/11	transverse anguste ellipticus	transversely narrowly elliptic	63/64	anguste obtrullatus vel anguste angulato-obovatus	narrowly obtrullate or narrowly angular-obovate
Series B.	RECTANGULARIS vel OBLONGUS	OBLONG	65/66	obtrullatus vel angulato-obovatus	obtrullate or angular-obovate
12	linearis	linear	67/68	late obtrullatus vel late angulato-obovatus	broadly obtrullate or broadly angular-obovate
13/14	anguste rectangularis vel anguste oblongus	narrowly oblong	68/69	latissime obtrullatus vel latissime angulato-obovatus	very broadly obtrullate or very broadly angular-obovate
15/16	rectangularis vel oblongus	oblong	70/71	depressa obtrullatus vel depressa angulato-obovatus	depressed obtrullate or depressed angular-obovate
17	late rectangularis vel late oblongus	broadly oblong	Series H.	TRIANGULARIS	TRIANGULAR
18	quadratus	square	72	lineari-triangularis vel subulatus	linear-triangular or subulate
19	transverse late rectangularis vel transverse late oblongus	transversely broadly oblong	73/74	anguste triangularis	narrowly triangular
20/21	transverso rectangularis vel transverse oblongus	transversely oblong	75/76	triangularis	triangular
22/23	transverse anguste rectangularis vel transverse anguste oblongus	transversely narrowly oblong	77/78	late triangularis	broadly triangular
24	transverse linearis	transversely linear	78/79	latissime triangularis vel deltatus	very broadly triangular or deltate
Series C.	RHOMBICUS	RHOMBIC	80/81	depressa triangularis	shallowly triangular
25/26	anguste rhombicus	narrowly rhombic	82/83	perdepressa triangularis	very shallowly triangular
27/28	rhombicus	rhombic	Series I.	OBTRIANGULARIS (vel CUNEATUS)	OBTRIANGULAR (or CUNEATE)
29	late rhombicus	broadly rhombic	84	lineari-obtriangularis	linear-obtriangular
30	quadrato-rhombicus	quadrate-rhombic	85/86	anguste obtriangularis	narrowly obtriangular
31	transverse late rhombicus	transversely broadly rhombic	87/88	obtriangularis	obtriangular
32/33	transverse rhombicus	transversely rhombic	89/90	late obtriangularis	broadly obtriangular
34/35	transverse anguste rhombicus	transversely narrowly rhombic	90/91	latissime obtriangularis vel obdeltatus	very broadly obtriangular or obdeltate
Series D.	OVATUS	OVATE	92/93	depressa obtriangularis	shallowly obtriangular
36/37	anguste ovatus	narrowly ovate	94/95	perdepressa obtriangularis	very shallowly obtriangular
38/39	ovatus	ovate			
40/41	late ovatus	broadly ovate			
41/42	latissime ovatus	very broadly ovate			
43/44	depressa ovatus	depressed ovate			
Series E.	OBOVATUS	OBOVATE			
45/46	anguste obovatus	narrowly obovate			
47/48	obovatus	obovate			
49/50	late obovatus	broadly obovate			
50/51	latissime obovatus	very broadly obovate			
52/53	depressa obovatus	depressed obovate			

SYSTEMATICS ASSOCIATION : DESCRIPTIVE TERMINOLOGY

CHART 1a

Symmetric Plane Figures

	1:1	6:1	3:1	2:1	1:1	5:6	2:3	1:2	1:3	1:6	1:12	
A ellipticus												A
B rectangularis vel oblongus												B
C rhombicus												C
D ovatus												D
E obovatus												E
F trullatus vel angulato-ovatus												F
G obtusellatus vel angulato-obovatus												G
H triangularis												H
I obtriangularis vel cuneatus												I

S. A. D. T. Chart 1a

第3図 単純な相称平面図形を示すチャートで、葉の形の表現に適している。
国際植物分類学会の機関誌 Taxon 11巻5号(1962)による。